

『續・禹城遊吟』 其の十四

山東の旅遊は、まづ淄博郊外の新城鎮に清朝の詩人王漁洋の故居を訪ふ。一時商人の邸宅たりしが、今は殆ど訪れる人も無く荒るるに委せたり。

王漁洋故宅 わうぎよやうこたく

海棠花落草萋萋 海棠花落ちて草萋萋

此地詩人曾所栖 此の地詩人の曾て栖む所

神韻高論何處問 神韻の高論何れの處にか問はん

廢庭春去鳥空啼 廢庭春去りて鳥空しく啼く

〔齊〕

○平成二十一年四月二十八日作

*王漁洋 名士禎、清朝康熙の詩人。

*萋萋 盛んに茂るさま。

*神韻高論 王漁洋の唱ふる詩説。